

2020年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2022/1/15

<p>団体名</p>	<p>特定非営利活動法人ぎふ多胎ネット</p>	<p>活動タイトル</p>	<p>孤立しがちな多胎家庭を社会につなげるスタートステップ事業</p>						
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■活動風景</p>						
<p>●望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>SDGs「3. すべての人に健康と福祉を」の理念に基づき、多胎家庭が多胎育児に関する情報・子育てスキル・子育て仲間・共感者・支援者を獲得することで、虐待が起こらない社会となるということへの社会的理解が進む。多胎家庭の虐待防止のため、自治体が多胎支援事業を充実させていく。</p>		<p>Webおしゃべり会</p> 						
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>多胎家庭が情報・子育てスキル・子育て仲間・共感者・支援者を得て子育てできるよう以下の取り組みを推進する。                  ①支援の担い手の育成とモチベーションの保持。                  ②多胎家庭1組に1人、マイサポーターが伴走支援する制度の構築とこれを用いた妊娠期からの切れ目のない支援メニューの提供。                  ③マイサポーター制度の確立に向けての他機関との連携の強化。                  ④マイサポーター制度の社会資源としての価値を情報発信。</p>								
<p>●団体の活動基盤</p>	<p>人的資源：広報・会計・資料管理・人材管理を担う事務局メンバーの増員。県内を8つのエリアに分け、それぞれにエリアマネージャーを置き、各エリアのサポーターと緊密に連携している。エリアマネージャーとサポーターの役割分担ができており、それぞれのスキルとガッツが上がり、自負が高まっている。エリアマネージャーと地域保健師の連携が強化されている。</p>								
<p>■活動報告</p>		<p>■1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>							
<p>多胎家庭への個別訪問を実施し、コロナ禍のため情報不足で育児困難に陥っている養育者の相談にのったり、多胎育児のノウハウを伝授したりして自立を促した。また、孤立感の軽減を図った。健診や予防接種の付き添いはコロナ禍で実家の援助が受けづらくなった家庭にとって有益な支援となった。健診はそれまで支援と結びつかなかった家庭にとっても利用しやすい支援であり、ポピュレーションアプローチとして支援の入り口になる効果もあった。                  多胎育児教室は対面で5地域で2回ずつ実施できたが、それ以外はWeb開催に切りかえた。活動を支える人材育成と事業効果の周知については、養成講座を3回開催、研修会を7回開催した。また企画書を作成し、事業の契約をしてもらうようプレゼンをして回った。</p>		<p>気持ちの共感による孤立感の軽減、手が足りないところの手助け、多胎育児の情報提供、育児スキルの伝授、子育て仲間づくりを切れ目なく提供することで、多胎家庭の虐待は防げることを実践の中で当団体は明らかにしてきたが、これを社会や関係機関に理解してもらい、当団体が担ってきた支援事業を継続させるため、事業効果を発信したり、政策提言をしたりすること、また支援を担う人材育成をすることを実践してきた。県行政が多胎支援で厚生労働大臣賞を受賞したこともあり、関係機関や企業の理解を得ることができ、想定していたよりも支援が進んだ。</p>			<p>事例研修会： 保健師など専門職も一緒に学んだ</p> 				
<p>■事業を通じて得られたノウハウ</p>		<p>■望ましい社会状況を達成するための課題</p>							
<p>通常業務に追われている保健師にとって、新規事業を立ち上げ予算化する意欲を持つことは難しい。漠然と「今のままではいけない」「何かしなければ」と思っているにも具体的に事業化する企画・予算案の立案をし、これを誰もが納得するものとするには必要性を強く感じ、具体的な方策が見えていることが大切である。                  企業の協力を得るにも同じことが言える。正しく具体的な社会課題の掘り起こしと、データ化されたニーズ、ぶれない理念に裏付けられた企画提案を示すことが大切だということがわかった。また、それを熱意をもって冷静にプレゼンする力も必要である。</p>		<p>県行政との連携により、多胎支援における県の役割と市町村の役割が明らかになってきた。プレゼンに回った市は支援が事業化されたが、1市1市、説明に回らないと理解を得ることは難しい。しかし、プレゼンができる人材が少なく、事業化に時間がかかってしまう。また人材を確保するため、労務や財務を学び、これを担当する職員も必要で、こうした団体基盤の充実が喫緊の課題である。</p>			<p>■活動成果のアピールポイント（自由記入）</p> <table border="1" data-bbox="1982 1533 2878 1734"> <tr> <td data-bbox="1982 1533 2226 1734"> <p>この1年間の活動を通じて</p> </td> <td data-bbox="2226 1533 2653 1734"> <p>企画とプレゼンによって人脈を拡げ、支援を事業化すること</p> </td> <td data-bbox="2653 1533 2878 1734"> <p>を達成しました。</p> </td> </tr> </table> <p>■受益者の具体的な変化（自由記入）</p> <p>初産でコロナのため育児指導もなく、双子の授乳や沐浴の仕方がわからず戸惑って泣いて連絡してきた産婦のもとに、頻回に訪問し一緒にやり方を考えながらやってみたところ、自信がつき、やがて1人でやれるようになっていった。</p>		<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>企画とプレゼンによって人脈を拡げ、支援を事業化すること</p>	<p>を達成しました。</p>
<p>この1年間の活動を通じて</p>	<p>企画とプレゼンによって人脈を拡げ、支援を事業化すること</p>	<p>を達成しました。</p>							